

中国転換期におけるインターネット公共圏の有効性 —— 同性愛者の差別問題を事例として ——

李 盈 子*

はじめに

インターネットの発展に伴い、人、モノ、組織、メディアなどが繋がり合う時代に入った。その結果、現実世界とは別に、インターネット世界が誕生した。人々がインターネットの力を借り、地域の限界を超え、社会変動を推進した。各分野においてインターネットに関する研究も次々となされ、このような空間との連携から新しい社会的動きを考察している（Healy and Link 2011；山口 2005）。

中国においても、ツイッターに似たSNS（Social Network Service）であるウェイボーが登場し、中国を変えた最強メディアとして評価されている（李・蔡 2012）。ウェイボーは社会資本の再構築、言論の自由、世論による政府に対する監視の推進、公共圏の構築などの役割があると肯定された（王 2013；車 2014：145-162；井上 2012：205-208）。

しかし、2013 年以降、中央政府のインターネットによる噂話の取り締まりキャンペーンにより、ネットオピニオンリーダーは萎縮した（劉 2018：64-68）。また、政府管理によるシンランウェイボーの管理がますます厳しくなったと論じられるようになった（伍 2014）。

現代中国社会におけるインターネットに関する先行研究を分析すると、主に3つに分けられる。まず、インターネットを新メディアと捉え、集団行為や抗議活動における活用・分析や、言論の自由に焦点を当てた研究である（曾 2012；車 2014；呉 2014；陳 2018）。次に、インターネットの個人レベ

* 都市社会文化研究科博士前期課程 2020 年 3 月修了

ルの作用に注目した研究である。一例として、中国のインターネット世論における、オピニオンリーダーの監督的役割の分析が挙げられる（劉 2018）。最後に、コントロール側からインターネットにおける運動を見直し、運動を行う側とソーシャルメディア・コントロール間の緊張関係を表した研究である（祁 2018）。しかし、これらの研究では運動における一般的な参加者のコメントを分析していないため、運動としての対抗性よりも、個人の対抗感が強調されている。

これらの研究の共通点は、中国におけるインターネット公共圏の公共性と政府に対する監視を肯定している一方で、政府のコントロール下にあるインターネット公共圏にして非楽観的な態度をとっていることである。情報のコントロールは印刷時代から存在してきたからこそ、正義の実現を目指す世論の監視により炎上する可能性がある。したがって、単に公共圏で何か事実で、真実とは何かを追究できないのである。

近年では、インターネットを通したグローバルな公共圏構築の可能性に関する研究が行われ、分裂している世界は公共圏で再統合することができるかどうか問われ、世界的インターネットという空間が娯楽化、消費化されているという現実が指摘されている（伊藤 2019）。非民主国家だけではなく、全世界にとって、インターネット公共圏の構築、その脆弱性とジレンマ、存在意義が注目されている。

現代国家を目標に発展の途上にある、転換期における中国では、経済、政治、文化の発展が不均衡であり、格差が広がり、社会の不正問題が深刻である（藤田 2018：53-76）。そのため、社会的偏見を受けている社会的弱者が社会的正義を要求している。このように分裂した社会を再統合することが、中国の課題である。

本論は分裂社会的再統合という機能を持つ公共圏に注目し、中国社会で排除されている社会的少数派の中の同性愛者及び支持者が、インターネット

を通して同性愛者に関する問題について声を上げている現象に基づき、インターネット公共圏という空間が社会的少数派にもたらす役割を検討したい。つまり、政府に強くコントロールされているインターネット公共圏は、同性愛者の差別問題解決を促進できるかどうか検証するのが本論の目的である。また、インターネット公共圏の参加者や、参加者間の関係と連携を重視し、その空間が持つ分裂した現代中国社会における意義を明らかにしたい。

すなわち、本論ではユルゲン・ハーバーマスの公共圏理論を再考し、中国社会で排除されている同性愛者の特徴に基づき、インターネット公共圏で社会的少数派が自らを救う現場を浮き彫りにし、転換期にある中国社会の発展に対するインターネット公共圏の有効性と重要性を論じる。

以上のことを考察するために、まず、第1章で中国における同性愛者という社会的少数派の現状と問題を整理し、同性愛者の自己観¹と社会的認知度の欠如を指摘する。その上で、同性愛者が受けている差別問題を解決に導くため、主流メディア報道、教育改革、法律修正という3つの解決策を分析する。研究者たちの先行研究を参考に、中国における同性愛者最も喫緊の課題は自己観、コミュニティの形成、及び自ら発言することであると指摘する。このようなことを可能にするものが、まさに中国インターネット公共圏であると、提案する。

第2章では、ハーバーマスの公共圏理論を用い、公共圏の3つの成立原理を分析する。そして公共圏に関する理論の発展過程を明らかにし、公共圏そのものの存在価値が注目されるようになったと強調したい。個人の自律性をめぐる批判から、全体機能の自律性へ注目し、このように絶え間なく反省を

1 自己観という言葉以外、例えば自己、自己概念、自分自身など似ている社会学用語が多い。自己に関しては、主体としての自己と客観としての自己の両面が同時に存在している。社会学において文化的自己観は相互独立的自己観と相互協調的自己観と分かれて討論し、社会的価値観、文化的習慣が人に与える影響を重視する(内田 2009)。本論は文化と社会的影響を主に考察を行うため、自己観という言葉を使う。

繰り返す自律的公共圏の本質は批判（合理的対話）であると結論付け、システムと生活世界との関係から公共圏を位置付ける。その上で、公共圏の作用を検討する。社会的に排除された少数派にとって、公共圏は自己観とコミュニティを形成し、公的討論で他者として発見されるという3つの役割を概括する。人々の関心を高め、問題の解決に導き、尊厳を取り戻させる公共圏は、社会問題を改善するために不可欠であることを浮かび上がらせたい。そして、中国社会の特徴を把握し、インターネット公共圏の登場を論じ、定義する。

第3章では、東洋文化特有の相互協調的自己観を形成するため、インターネット公共圏は中国の同性愛者にとってかけがえのない存在であることを明示したい。そのために、本研究では同性愛者NGOの責任者へのインタビューとともに、中国のインターネットでのコミュニケーションを考察する。その上で、現実社会では実現しにくい自己観を、同性愛者がインターネット公共圏を通して形成できることを論じる。また、インターネット公共圏の登場前後における同性愛者性教材、婚姻、生活現状の問題に対する自己表現や、活動を比較し、インターネット公共圏がそのコミュニティの成長と、人間としての尊厳を取り戻すことを検討する。

第4章では、他者としての発見について考察を行う。中国のインターネット公共圏はどのように中国の生活世界を合理化させ、どのようなコミュニケーションを行い他者と向き合っているのかを解明する。まず、偽装結婚問題について、社会に批判される立場を脱し、自身も被害者であると声を発し、同性愛者の社会問題に注目を集めるに至ったプロセスを例に、自律性を持つ中国インターネット公共圏は他者を発見し、社会的認知度を高めるのに役に立つことを論じる。次に、シンランウェイボーにおいて、同性愛者及び支持者と連携して行われるオンラインアクションが中国の独立キューレー

ター²や知識人の注目を引き、性的指向の転向療法を行う治療機関への抗議活動へ繋がった例を挙げ、その展開を考察する。ここでは抗議活動の関係者にインタビューを行い、抗議活動と、治療機関に迫害された同性愛者がインターネット公共圏で声を発することとの関連性を明らかにする。これにより、同性愛者及び支持者は、インターネット公共圏を通して、同性愛者を社会的に排除された他者として発見し、自身と向き合うコミュニケーションや活動を行うことで、現実世界まで影響を果たしているインターネット公共圏は、中国社会において重要な役割を果たしていることがわかるだろう。インターネット公共圏におけるこのような積み重ねが現実世界に大きな影響を与えるまでのプロセスを示すことにより、中国におけるインターネット公共圏が生活世界の合理性を追求すること、及びその存在意義を論じる。とはいえ、インターネット公共圏は万能ではない。そこで、本章をしめくくるにあたり、今後の課題を提示する。

第1章 中国の現代社会における同性愛者

1. 中国同性愛者の現状

現在、中国の同性愛者の数は約4000万人から7000万人と推計されている³。これは日本の人口の約半数である。「中国性的少数者現状調査2016年報告書（以降、2016年報告書）」によると、社会的圧力のため、自分の性指向を公開している同性愛者等の性的少数派は5%しかいない⁴。隠蔽性を持つ同性愛者が自分を隠していることで、同性愛者に関する全面的な統計、

2 独立キュレーターはIndependent curator から訳した職名である。幅広い専門職であるが、本論に独立キュレーターは政府、企業、NGOなど組織に属せず、独立的に展覧会を組織する人を指す。

3 中国同性恋現状調査ホームページより：「中国に7000万人LGBT向けビジネスが活発化」2017年3月29日。

4 国連開発計画署（2016）「中国性少数群体生存状況，基于性倾向，性别认同及性别表达的社会态度调查报告2016年」P5。本論は「中国性的少数者現状調査2016年報告書」と訳し、2016年報告書を略称する。

問題発見や研究が進みにくいのが現状である。

世界規模で同性愛は心理问题、異常ではないとされていることは既に明示したが（椎野 2017）、中国 2014 年報告書によると、中国において、同性愛はエイズ、心理的な歪み、性的倒錯を伴うものとされ、汚名であると見なされている。また、「2018 年性的少数者心理健康状況報告書（以降、2018 年心理報告書）」では、約 50 % の性的少数者に鬱症状があると明示されている⁵。さらに、強制的性的指向転向療法機関の存在のため、同性愛者の人権を侵害している⁶。

2016 年報告書によれば、家庭で自分の性的指向を公開している同性愛者は、15 % しかいないことが明示された（2016 年報告書：8）。中国は欧米諸国とは異なり、自分を隠して異性愛者と結婚する偽装結婚問題が深刻である（李 2016）。同性愛者にとっては、異性愛者と結婚するのは詐欺であるものの、同性愛者と結婚しようと思っても法律で認められていないというジレンマがある。また、中国の法律では同性婚を承認していないだけでなく、性的指向についての反差別も明確にされていない。

北京同志センターの責任者段氏⁷によれば、法律制度の未整備は、中国における同性愛者などの性的少数派に関する NGO 活動の障害になっている。特に、活動の資金援助や活動場所の申請は極めて困難になっている。

一方、中国では性教育の遅れにより、同性愛者の差別問題を解決するための理論的な基礎が欠如しており、同性愛者など性的少数派の自己観にも影響を与えている。同性愛者などの性的少数者は多様な性教育を受けることが自分を理解して生きていくこと、他人との相互理解に役に立っている（井

5 北京同志センター（2018）「中国同志中心心理健康报告」中国科学院心理研究所出版 P18-19。本論では「2018 年性的少数者心理健康状況報告書」と訳し、2018 年心理報告書を略称する。

6 「【头条】无良医院用“48 条染色体”检测同性恋」北京同志中心 2015 年 01 月 27 日

7 筆者による同性愛者などの性的少数者に関する NGO である中国北京同志センター事務員段氏への電話インタビュー（2019 年 06 月 07 日）

谷 2016；池ノ谷 2016；堀川2018)。それだけでなく、多様な性教育は同性愛やトランスジェンダーへの嫌悪感を低下させる効果があり、いじめ問題を抑制作用があるから、専門内容として、全ての子どもに対して多様な性教育を早めに教える必要があるという研究も出ていた(池ノ谷 2016；石丸2017；佐々木 2018；)。しかし、2004年の「中国高校教科書同性愛錯誤と汚名内容及び影響調査報告」によると、2001年以降に出版された中国教材の4割は、同性愛は病気であると記している。約5割には、同性愛は治療されるべきであると書かれている。

2. 同性愛者の差別問題をめぐって

同性婚合法化は趨勢であるとも言えるが、全ての地域で政策、法律を一致させることは難しい(小川 2016)。各国の文化と宗教、主権も尊重しなければならないからだ。現地の意見を無視して強制的に与えた人権保護は、人権障害になる恐れがある。しかし、中国における同性愛者問題の最大のジレンマは、日常生活で社会的差別を受けている同性愛者は自分を隠し、問題を表に出さないため、他の人から社会的少数派であると思われていない。2016年報告書では、中国社会では同性愛者に対する認識の不足のため、賛否を明らかにしない人が多いと書かれている。

大勢の異性愛者にとって、同性愛者は不存在、あるいは見えない架空のコミュニティである。したがって、同性愛者の人数は他の社会的少数派よりはるかに多いにもかかわらず、性的指向を公開することの圧力により、最も基本的な人権保護が他の社会的少数派よりも劣ると指摘された(張 2002: 58)。自分を隠せば隠すほど、問題の発見が難しくなり、解決の道筋も立たなくなる。中国の性研究者である李銀河の提案(2016)により、同性愛者は自分の権利を守るために、自分なりのアイデンティティを持ち、自ら声を発し、隠すことをやめることが重要なのである。そして、社会的理解を獲得する鍵はコミュニケーションにある。

3. 差別問題の解決に向けた対策

実は、20世紀初、中国中央電視台 CCTV ニュースは、「同性愛を差別すべきではない」と表明したことがある。あれ以降、同性愛者のコミュニティと同性婚に関する話題を徐々に取り上げ始めている。しかしながら、中国初のエイズ患者は同性愛者であると報道されたことにより、同性愛者は今でもエイズ患者と同視されるという偏見を受けている。結局のところ、2013年まで同性愛者に対する社会受容度は30%に止まる（2014年報告書：22）。主流メディアの報道は、同性愛者に自己表現の十分な空間を与えられないという限界もある。

次に、差別問題をなくすため、教育の改革と法律の制定が必要であるだろう。教育の場合は、現行中国の教材審査は差別の排除を明確化していない、審査基準はイデオロギーなどに集中し、曖昧である。また、経費の不足により質が低いという問題がある。2019年まで、中国において基礎教育の全面的普及は達成されていなかったが、性教育改革に関心を払っていくのが、方剛は中国性教育は民間組織に頼るべきと論じている。

法律制定の観点から言えば、時間かかると全面的な考えが必要である。前述の通り、このような厳しい社会環境にいる中国の同性愛者は、それ以上待つことができない。また、法律の改正を促進するためには、社会的に弱い立場に立っている社会的少数派が声を出し、より多くの人に見られ、より多くの議論を誘発するようしなければならない。

差別問題をめぐって、私たちが認めなければならないのは、教育改革や法律改正が完成しても、差別問題が解決できると限らないことである。憲法が自由と平等に基づいて国民を守ると宣言した米国では、人種差別問題が今でも解決されていない。イギリスでは2013年に同性婚が認められた後、NGO 責任者は、社会的差別の問題は未だ深刻だと主張している⁸。

8 Launch Event: LGBT Action Plan 2018

したがって、中国の同性愛者がどうやって根本的に差別問題を改善するツールを探し出し、社会正義の実現を促進するか、これは本論が検討しなければならない一連の問題である。排除された少数派の現状を把握し理解することは、政府だけの仕事ではなく、社会の全員の責任とも言える。現在生じている異なる集団に対する排除は、社会全体で解決する必要がある。本論は、いくつかの代表的なネット掲示板、ソーシャルメディア、通信アプリを取り上げ、特に中国における運営時間が最も長く、最大のソーシャルメディアであるシンランウェイボーを中心に、同性愛者という社会的少数派に関する動きを考察する。そして、中国におけるインターネット公共圏は、中国の同性愛者の自己観とコミュニティの形成、他者としての発見に対して役割を果たしているかどうかを検討する。

第2章 現代社会に成立した公共圏

1. 公共圏の定義

公共圏の概念は、ハーバーマスの『公共性の構造転換』(Habermas [1962] 1990=[1973] 1994)⁹で具体的に討論され、提起された。本稿では異なる背景に検討されたハーバーマスの公共論に基づき、公共圏に関する研究の方向性と解釈方法の変化を明らかにした上で、全面的に現代社会における公共圏を再解釈することを試みる。

ハーバーマスの公共圏の登場と発展により、「文芸的公共圏」から政治的公共圏への変遷が見られる(吉田 2016)。ハーバーマスの『公共性の構造転換』において、公共圏は個人によって組み立てられた公共の領域として理解できるということが、初めて示された。公的問題と私的问题是関連しつつ、区別されなければならないと強調された。「公共圏」の定義は明確に示され

9 著書名として定着した『公共性の構造転換』のタイトル表記以外の Öffentlichkeit の訳語は、引用文、本文ともにすべて公共圏とした。

ていないものの、3つの要素（参加者、世論、場所）が取り上げられている（Habermas 1991）。この3つの要素について解説する研究では、公共圏は国と社会との間における、様々な問題をめぐって参加者が議論し、世論、言わば公的意思を形成していく空間であると定義されているものが多い（車 2014）。参加者は、直接的または間接的に、自由にこの空間に参加し、干渉を受けないものと仮定している。その後、一般に言われている公共圏の成立原理である「平等性、公開性、自律性」は、多くの研究者によって公共圏実現可能性の重要な条件として取り上げられ、検討されてきた（山口・佐藤 2003）。

まとめると、公共圏とは自律的個人が平等性を尊重し、公開性のある空間においてコミュニケーションを行い、世論や公的意思を形成していく空間である定義できる（山口 2003；西本 2011；車 2014；寅澤 2015；三島 2016）。しかし、完全にこのような状態を達成するため、人々の素質に対する要求が非常に高いことが分かる（寅澤 2015）。つまり、これは理想的な公共圏の定義であると言っても過言ではない。

2. 公共圏の再考

ハーバーマスの考察では、経済発展によって登場したブルジョワジーが政治権力に対して再分配を要求し、様々な活動とコミュニケーションを行った。このような公共圏は19世紀のヨーロッパにおける自由民主的な社会の形成に貢献し、重要な役割を果たした。このような観察と解釈はさらに発展してきた。そのため、公共圏に関する主流的討論は長い間に政治的機能に焦点が当てられている。

しかし、資本経済により、格差が拡大し、社会へ関心は全体を代表することではなく、特定の利益団体になった。社会的話題は特定の利益団体によって形づくられることとなった。市民における自由平等という理想的前提が破壊され、不正義が隠された。公共性が集団間の競争物になり、市民が公

的事物に関心を持って討論しなくなり、公開された情報を消費するだけの観客になるとも論じられた（田畑 2019：51-67）。

福祉国家の出現や、国家と社会関係も変化してきた。国家権力は安全、治安のみならず、社会保障制度、財政政策、再分配を通じて私的生活に浸透する。また、消費社会の形成によって、市民の公共性が失われつつある。特に様々な新しいメディアの登場により、情報爆発的時代に入ってから、人々は1つの情報に注目する時間は短くなり、視線が混乱し、多様な問題に対する有効的な公論を形成できなくなっている。

行政と経済が繋がることで、自律的市民社会の公共圏における公衆が姿を消し、受動的文化消費者という大衆になり（齊藤 2004）、公共圏が自律性を失いつつ、情報の娯楽化が起こっている現状が確かに存在している（伊藤 2019）。しかしながら、公共圏が一時的に政治的機能を失っても、その存在意義は失われないからである。個人が世界と接触し、交流がある限り、公共圏は検討される価値がある。

社会の複雑性により、ハーバーマスは社会を政治システム、経済システム、生活世界という3つに分け、改めて考察した。効率を重視するシステムとは異なり、生活世界の合理性は相互理解を目指す過程の合理性（対話的合理性）である（中岡1996）。

生活世界の合理性という理論は1981年に発表されたハーバーマスの『コミュニケーション的行為の理論』と関連している。ハーバーマスは公共圏における批判は単一的な対抗や反対ではなく、本質は合理的対話であると主張している（田畑 2019）。そこでは、公共圏の自律性とは、人々が合理的対話を行うことによって、全体機能の観点から論じべきであると気づき、絶え間なく反省することであると論じられた。また、政治的公共圏よりも理性を強調し、発言によって人間の尊厳を実現することが重要であると主張されている。（吉田 2016）

公共圏に関する理論がここまで発展してきた経過を見れば、社会発展により、公共圏が世論形成で政治の政策まで影響を与えるという政治的役割から、公共圏そのものが存在する価値へと注目されてきた。

3. 公共圏の重要性

グローバル化の進展により、世界全体が豊かになったが、格差も広がっている。異なる発展水準を持つ国間の矛盾、急速に発展できた国の内の矛盾、なかなか発展がうまくできない国の中の矛盾など、様々な矛盾が悪化している。社会分裂が進み、社会再統合に期待するため、90年代以降、公共圏をめぐる討論が世界範囲で改めて注目を集め、公共圏の重要性が改めて検討されている（花田 1996）。

公共圏の重要性は政治学、社会学、哲学という三つの分野から検討できる。まず、政治学で、ハーバーマスは公共圏の中で社会統合の構造を見たと言っている。公共圏存在は政体の合理性を検討し、問題を発見することができるだけでなく、国民を一致団結させることにも役に立つと考えたのだ（ハーバーマス 2013）。

社会学では、公共圏は正義と繋がる。公共圏は他者の関係を重視し、公共圏を通して社会から排除された人を見つけ、彼らの存在を意識し、社会的価値を与える。そのような相手に向き合うプロセスを通して、国家の正義、尊厳ある社会、共存的な世界が構築しうる（鎌田 2014：20-23；中川 2018；加藤 2019：7）。

哲学に関して言えば、公共圏の重要性は公共圏の必要性であると解釈される。公共は哲学の概念であり、存在する必要性がある。この必要性について、2つの主張がある。1つは必要が欲求とは異なること。もう1つは、必要の充足は欲求の充足に優先することである（山森 2001：49-60）。社会の中で、異なる集団が求めている目標や、それぞれの価値観の違いよりも、弱い立場に立つ人の問題が優先されるべきである。

このような重要性を持つ公共圏は、様々な問題を解決に導き、存在するだけで重要な役割を果たしているとわかる。中国社会を検討する場合には、現実社会に弱い立場、あるいは社会から排除された人々にとって、公共圏は彼らの社会問題を改善する不可欠な一環である。政治学、社会学、哲学から公共圏の自己観を形成すること、コミュニティを成長すること、他者を発見し、尊重を与えることという3つの作用を取り上げられる（花田 1996；山森 2001；加藤 2019）。結果よりプロセスを重視することで、お互いのコミュニケーションによって徐々に問題の本質を把握することができる。また、過程中に新たな問題も発見できることで、異なる問題間の関連性を見つけ、優先順位を決め、より良き世界を構築するで、生活世界の合理性を求めるのが言える（阿古 2014：236）。

4. 中国におけるインターネット公共圏

本節は先行研究を参考し、中国におけるインターネット公共圏を定義し、現状を示す。中国では、国家の中の国民は市民意識よりも「百姓」、「民」としての認識が強い（宇野 1978：27-47）。歴史的に社会階層と国家統治を重視する中国は、公共に対する意識が異なる（齋藤 2004）。1990年代以降の出来事から考察してみると中国でも、公共性、公共空間という意識は確かに存在していると判断できる。Web 2.0の時代に入った後、ブログやネット提示版などが登場したと主張されている（吉居 2008）。これは、分散化、社会化、開放性によって特徴付けされている（楊・孫 2018：13-14）。中国のインターネットにこのようなインタラクティブな特徴が現れ、下からの情報発信、共有、さらに情報をめぐって議論することで、中国の市民参加意識の萌えが注目を集めた。

公共圏に関する定義の発展及び討論を参考にした上で、インターネット公共圏は、インターネットで人々が他者と向き合ってコミュニケーションを行い、公的討論で形成される空間であると定義できる。この空間は現実世界と繋

がっていて、多様で、変化している。また、インターネット公共圏は平等性、開放性、自律性を持って発展し、政治、経済、生活世界の間に存在し、お互いに影響し合っている。それを生み出す場はインターネットを通じて開放的コミュニケーションができる場である。

大量のインターネットユーザーと膨大な情報量を持つ中国は、書き込みをする際に実名登録を義務づけ、個人責任を強調している。さらに、シンランウェイボーなど大きなサイトには管理ページがあり、有害メッセージ、人身攻撃や偽情報などを管理し、その判断過程も公開しているため、自律性を果たしやすいと考えられる。また、近年、中国の公益活動による公共性もよく検討されている。民間において活力が見られる人々の関心を集め、環境問題を解決するために努力している。

前述のように、中国においてインターネット公共圏は同性愛者など社会的少数派にとって、自己観の形成、コミュニティの成長、他者としての発見という3つの役割を果たしているかという点は、この空間の有効性を検討する標準の1つになる。言わば、本論は中国においてインターネット公共圏が生活世界での合理性を追求する場として捉えられるかどうかを検討することで、インターネット公共圏の意義を解明したい。

第3章 「性」と「生」

1. 同性愛者の東洋文化的自己観

同性愛者にとって「自己」という問いは、自分自身に対する知識的認識だけではなく、自己の他者関係性にも着目し、他者との関わりの中で自己の存在を思考するものとなる¹⁰。このようなプロセスを経て、自己観は徐々に形成されていくのである（Eurich 2018）。同性愛者は他の社会的少数派とは異なり、自分が同性愛者であると気付くと、最初是否定的な態度を取る（及川

10 日本社会心理学会「社会心理学事典」2009年6月20日 P3

2016:132-149)。そのため、同性愛者に対する教育と理解は重要である。特に、自己観に関する研究においては、農耕文化、仏教や儒教など文化の影響による東洋地域における相互協調的自己観が、対人関係は周囲との協力であるという意識傾向がある(内田 2009)。つまり、東洋文化が溢れる中国の同性愛者の自己観を完成させるためには、教育、知識及び人間関係の両方が重要であると言える。

まず、内的な自己観に対するインターネット公共圏の影響を検証する。

インターネットの出現に伴い、昔から形成されてきた権威的知識の絶対的地位が変わった。2018年の性的少数者に関する意識調査研究によると、中国の学生のうち、同性愛者等の性的少数者に関する言葉をインターネットからの情報で知った人は90.8%に上っている(河嶋 2018:5)。

外的な自己観には、北京同志センターの段氏はインタビュー¹¹において、インターネットが同性愛者にとって、仲間を探す主な手段になっていると述べている。百度貼吧¹²は中国で一番大きな Bulletin board system (日本語は電子掲示板、以降、BBSと略称する)である。その中に、同性愛を主題とした比較的大規模なスレッドが2つある。1つは「カミングアウトしよう」(中国語は出柜吧)で、フォロー人数は42,770人、投稿数は11,291,321件¹³である。もう1つは「ゲイバー」(中国語は同性恋吧)で、フォロー人数は724,506人、投稿数は14,448,121件であり¹⁴、両スレッドの人気は確かである。その中には、同性愛者のような社会少数派の差別是正のため、同性愛の知識と組み合わせ記事を整理し、連続テーマの記事などを投稿している方もいる。

11 筆者による同性愛者などの性的少数者に関する NGO である中国北京同志センター事務員段氏への電話インタビュー(2019年06月07日)

12 貼吧(tieba、日本語読みは「ていえば」)は百度が提供するコミュニケーションプラットフォームである。そこでは、百度IDが持っているユーザー同士が、キーワード別でスレッドを持つことができ、BBS(掲示板)形式で交流することができる。

13 2018年12月13日に現在、筆者統計。

14 同上。

インターネット公共圏にこのようなグループにおいて様々な異なる意見を交換し、異なる視点から論じ、他者の経験を結合させることは、有効的なコミュニケーションとなり、同性愛者の自己観完成の一助となる。

2. 中国同性愛者コミュニティの移動

自己観とコミュニティは切り分けることができない。同性愛者のコミュニティの形成は「内力」と「外力」に影響されている（馮・趙 2016：1817）。この節では、地域と意識の両面から同性愛者のコミュニティの移動、及び変化を説明する。

同性愛者のコミュニティは現実世界の活動場所は分散し、固定性が弱く、制約も多いと論じられた（張 2002：54）。また、1998年に出版された『中国13億人の性』では、同性愛者は社会に悪い影響を与える存在で取締まりの対象になった記録もあった（劉 1998：118-119）。

その後、同性愛者は安全性が高く、制約が少ないインターネットを主な活動場所に変え、分散していた個人やグループは、インターネット公共圏を通じて幅広いコミュニティを形成するようになった。多くの同性愛者にとって、インターネット公共圏は自分のコミュニティに接触し、参加して包摂されるための唯一の方法である。

現在、中国産ゲイアプリ「Blued」は6億ドルの価値を超えており、さらに、政府と連携してエイズ予防のため努力している¹⁵。「Blued」の発展と創始者の思いは多くの主流メディアに報道され、注目を集めた。同性愛者というコミュニティはもはや無視できない存在になったと証明した。

段氏は¹⁶、中国における同性愛者など性的少数者にとって、有効的な情報と思想を伝え、彼らの自尊心を育て、コミュニティを形成させる広範なコミュニケーションを行う場所は、インターネットのみであると言及している。また、

15 BLUED：独创“互联网+HIV防治”，让“不一样的烟火”一样的绽放 2018年6月27日

16 筆者による中国北京同志センター事務員段氏への電話インタビュー 2019年6月7日

彼は異なるコミュニティ間で交流させ、お互いの情報を交換させるために、相互理解の促進を志向しているとも述べている。

3. 同性愛者インターネット公共圏のコミュニティをめぐって

約15年前に取締まりの対象にもなっていた同性愛者は、現在自分の権利のため起訴し、カメラの前に自ら顔を出し、リアルな同性愛者の世界を人々の目の前に公開している。これらは自己観の形成を証明するだけでなく、自分たちのコミュニティの成長を世の中に示すことでもある。

2015年3月、中山大学の学生である秋白が、国家新聞出版広電総局と広東省教育庁に対し「教科書の同性愛に対する誤り及び汚名を着せる描写の内容を公開で通報する書状」を出し、広東省教育庁前で抗議活動を行った。¹⁷インターネット公共圏に「#同性愛問題がある教科書を告発しよう」、「#同性愛を汚名する教科書を拒絶」などの活動が現れ、より多くの不合理的な教材が発見できたことで、出版社に圧力をかけた。これらの自発的な動きによって、インターネット公共圏に性教科書や学校の性教育に関する話題が増え、同性愛に関する教材、性教育、性教科書などの関心が高まり、公的討論が行われるようになった。

2015年4月24日、中国同性愛者コミュニティに関する初のドキュメンタリー映画「闇から昼へ」がインターネットに登場し、注目を集めた。この映画は、2014年から2015年まで11都市で、48名の同性愛者とその家族を記録したものである。約23分間は中国同性愛者の生存の現状を表した。この映画は豆瓣¹⁸というサイトで8.0点の評価がつき、4つ星以上を付けた視聴者は75%を超えており、視聴者の共感を得たことがわかる。

2016年初、「中国で初めての同性婚権利擁護案」をタイトルにしたトピッ

17 林可欣「中國同性戀受教育權第一案」敗訴中國平權路仍艱難」 2017年4月28日

18 「豆瓣」は書評や読書記録を管理するサイトである。本だけでなく、映画や音楽など、幅広いコンテンツのレビューを管理することができ、SNSの要素も兼ね備えた中国のWEBサービスである。

クもインターネット公共圏に現れ¹⁹、注目を集めた。その中で、シンランウェイボーに中国青年報の報道²⁰のアクセス数は79万件に上った（2018年12月10日までの統計）。当案件の弁護士は、法廷で審議されたこと自体が歴史的な出来事だと強調した²¹。さらに、中国学界まで波及し、同性婚問題にも具体的な討論が行われるようになった。

第4章 インターネット公共圏の他者

2014年2016年報告書により、2012年まで、同性愛者が討論され始めてから約10年経っても、大衆にあまり受け入れられなかったことがわかる。しかし、その受容は2013年以降か2016年まで倍以上増加したこととなる。2013年頃にインターネット公共圏で影響力を持った同性愛者に関連した代表的な出来事を分析し、同性愛者が自ら声を発する努力をしたことで、他者として人々に発見されたことと切り離せないと考えられる。

1. 「同妻」話題に関する三つの段階

シンランウェイボーで「同妻」というトピックにおける交流内容を考察対象として、時系列にデータ分析を行い、コメント内容を分析し、その中の公的討論の変化を捉える。このような変化が、中国でのインターネット公共圏において他者の発見という役割を果たしていると検証する。

2011年6月20日、シンランウェイボーに、「同妻」というトピックが現れた。これは男性の同性愛者と結婚した妻を意味する。現在、このトピックのアクセス量は2017万4千件に達成し、7,790件のコメントが残されている（2019年11月20日までの統計）。

「同妻」というトピックのコメント内容は、主に7つのカテゴリーに分けられ

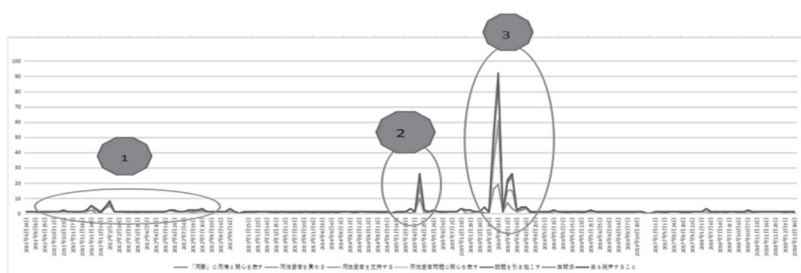
19 JST、「認められなかった中国初の「同性婚」カップル」2016年4月14日

20 「一場“同志婚礼”的能见度」2016年5月18日

21 Zhang Rong「中国の同性愛カップル、命がけの裁判は何を残したか？弁護士に聞く」2016年04月20日

る。「同妻」に同情と関心を表すコメント、同性愛者を責めるコメント、同性愛者を支持するコメント、同性愛者問題に関心を表すコメント、話題を引き起こすコメント、無関係なコメント、同性愛者本人によるコメントである。

以上を踏まえて、2011年から2018年末までの有効なコメント量を整理する²²と、図表1のような変化が見られる。コメント量の変化が激しくなったのには3つの段階がある。



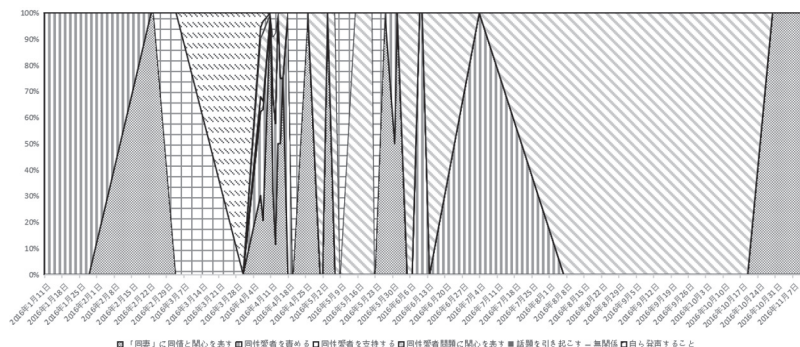
図表1：2011年－2018年コメント量変化（出典：筆者作成）

まず、第1段階は2011年から2012年末までである。同妻に対して同情や関心を表したり、同性愛者問題に関心を表したりするコメントや、同性愛者を責めたり、支持したりする意見も見られた。しかし、このように変化が繰り返される中でも、同妻に同情や関心を表すコメントは最初から最後まで見られた。第2段階は2015年の1年間である。第1段階と同じ、しばしば同妻に同情と関心を表す公的討論が繰り返された。

第3段階は2016年の1年間である、この段階におけるコメント内容を時系列に100パーセントの面積表で表すと、時間とともに、コメント内容が変化していることわかる（図表2）。交流が最も激しかった時期といっても過言ではない。この時期には、同性愛者が自ら声を発することで、「同妻」トピック

22 統計において、同じ日に同一人物が同旨の意見を複数で発信した場合は、1回と計算する。1つのコメントの中に複数の意見がある場合は、強調された部分を取り上げる。

において同性愛者問題に関心が集まる状態がしばらく続いた。これは前述した2つの段階にはない特徴である。言わば、同性愛者が自ら声を発することで人々の関心を集め、排除された社会的少数派として意識され、他者として発見されるという傾向が窺えたのである。



図表3：2016年コメント量の変化（出典：筆者作成）

2. 「同妻」問題における他者の変化

第1節の変化を分析したら、偽装結婚問題における他者は同妻だけであると意識された後、3つの段階の交流プロセスを経て、同性愛者問題は具体的に討論された。排除された社会的少数派として同妻と同性愛者両方が意識されるに至ったことがわかる。

第1段階では、同性愛者が異性愛者を騙して結婚したため、「同妻」問題が発生した。他者は同性愛者の異性配偶者である。多くの同妻が大衆の前に現れ、自ら語り、社会に「同妻」に注意を払うように呼びかけた²³。

一方、シンランウェイボーにおける同妻というトピックにおけるコメントを見ると、コミュニケーションが進むにつれ、同妻という社会的少数派が出現する原因が検討され、さらに同性婚の合法化問題にも関心が示された。長期的な公的討論により、多くの問題が露見できる。しかし、同性愛者は偽装

23 王芊霖 同妻：她们的“初恋乐园”知乎 / Prismy-LGBT)

結婚問題において、失語状態のままだったのである。

2016年、シンランウェイボーにおいて、「私は同性愛者であり、私は異性と結婚しない」というトピックが同性愛者により始まった。そのトピックの提起によって、同性愛者が偽装結婚問題対し受け身から自発的立場に立ったことが示された。今までにアクセス量は989万件に達成し、コメントは7000件ほどある（2019年6月8日までの統計）。

このような動きを通して、社会的圧力に相対し、偽装結婚による問題を解決しようとする姿も見せている。また、注目を集めることができたことで、同性愛者に関する討論も盛り上がった。異性愛者に無意識的に無視され、排除された同性愛者は、自分の写真を使いながら性的指向を公開した。インターネット公共圏でのコミュニケーションを通じて、他者としてのリアルな存在であると宣言し、もはや想像できない存在ではないことを示しているのだ。他者として認識されることは、同性愛者に関する問題を解決するために必要とされるファーストステップである。このことは、中国のインターネット公共圏が他者を発見する役割を果たしていることの現われなのである。

3. 矯正される恋人運動の登場

2013年から2019年にかけて、性的指向転向療法に関する公的討論、及びその注目度が変化したことで、同性愛者などの性的少数者は自らの動きと社会から助けを得て、社会的少数派という他者としての存在立場を確立した。特に2018年末まで、中国では性的指向転向療法に反対する「矯正される恋人」（中国語は被扭转的恋人）という性的指向転向療法に関わる運動が始まった²⁴。

「矯正される恋人」で走った3台のトラックに貼ってある3つのセンテンスは、「存在しない病気のために治療する」、「中国の精神疾患の診断基準は依然として性的指向障害を残存している」、「19年、なぜ」である。

24 吴優「武老白：如果能拥抱一切，那拥抱得笨拙又有什么关系」2019年05月16日

実は、これらの3つのセンテンスは、同性愛者などの性的少数者のコミュニティ以外の人にとって、その指している内容や意義がわかりにくいものである。一方で、コミュニティの人が見るとすぐにわかるものである。これに対して、計画者である鄭宏彬はオンラインの声を通じて同性愛者など性的少数者に焦点が当たっているが、性的少数者というコミュニティの全体的な社会認知度はまだ不十分である。より多くの問題が社会で発見されるため、同性愛者などの性的少数者が自ら声を発するよう励ます必要があると述べた²⁵。そして、この運動に関するシンランウェイボーのトピックは、アクセス量は1300万件を超え、2万件以上のコメントが残されている。性的指向転向療法や同性愛者など性的少数者に関する多くのコミュニケーションが引き起こされたことがわかる²⁶。

「矯正される恋人」が発生する前にも転向療法の被害を受けた同性愛者は少なくはないが、自分からそのような苦しみを述べる人が非常に少なかった。また、転向療法に対抗して裁判をおこして治療機関を訴え、勝訴したとしても、治療機関は罰金を払って営業し続けた。さらに、今でもインターネットで同性愛は病気かという問い合わせをすると、「そうである」や「治療できる」と返事をする医者もいる。その原因に関する検討はいくつかあるが、主に治療機関の莫大な利益、専門の管理機関の不在、人々の認識の不十分などが挙げられる。

前述した検討に関して、「矯正される恋人」運動における非合法治療機関のリストが公布された。これは非合法治療機関の非科学的治療方法を記録（写真・録音・文字化）し、公開したものである。非合法治療機関の無責任な発言を記録し、公開されたこのような情報は、多くの関心がある人々にシェアされ、より多くの人に知られようになった。同性愛が病気でなくなるまで対

25 筆者による鄭宏彬に対する電話インタビュー（2019年4月17日）。

26 William Yang「反性傾向扭转治療 中国赤卡车捍卫 LGBT」2019年01月23日

抗を続ける姿勢を見せたのである。

さらに、それに対し、新しく「科学的に曲がる」(中国語は科学掰弯)治療機関が2019年1月中国で登場し、ホットトピックになった。この機関はカウンセリングを通じて異性愛者を同性愛者に変えようとしている。筆者がその機関の社長にインタビューを行った時²⁷、彼がこの機関を立ち上げたのは、本当に異性愛者を同性愛に変えようとしたからではないと述べている。同性愛者の差別問題を改善するため、コミュニティ以外の人々の理解を獲得し、一緒に社会改革を促進することを望んでいる。

4. 中国社会運動の他者をめぐって

同性愛者にとって、中国のインターネット公共圏は他者を発見した上で、新しい方法を用いて中国におけるアートと社会運動を結合させる試みであり、新しい民意の表現に関する検討にもなると見られている。

「矯正される恋人」の計画者としての鄭宏彬は、「このような運動を始めたきっかけは、シンランウェイボーで発生した「#私は同性愛者」というユーザーの抗議行動である」と述べている²⁸。

2018年4月13日シンランウェイボーの規制に対して、同性愛者を含めた性的少数者のユーザーとその支持者たちがオンラインで大規模な抗議活動を展開し、わずか3日後には公布した規制が撤回された²⁹。この事件から、政府にコントロールされたインターネット公共圏は、合理的な過程を通じて社会的少数派の権利を保護したことが理解できる。

7年前に始まった「私は同性愛者だ」というトピックには、この事件によって「同性愛者を支え、差別に反対する」という表現が加わり、人気を博した。数日でトピックのアクセス量は5億件を超え、その後2018年12月14日まで

27 筆者は2019年5月24日に、社長である戴建勇にインタビューを行い、記録した。

28 筆者による鄭宏彬に対する電話インタビュー(2019年4月17日)。

29 「微博宣布清理行动不再针对同性恋内容」新京報財訊 2018年4月16日

に、アクセスは8億6000万件を超えると、コメントが7万件以上、フォロワー人数は約15万人となった³⁰。この話題は、ウェイボー史上、アクセス数が一番高い同性愛に関するトピックになった。

このようにインターネット公共圏で盛り上がったことで、鄭氏は「同性愛者が中国で直面する様々な問題に関心を持つようになった。また、同性愛者である友人との交流を通じ、同性愛者など性的少数者の差別問題を改善するため、医学の方面から批判を行うという試みが始まった」と述べている。「#私は同性愛者」というインターネット公共圏での動きが「矯正される恋人」という運動のきっかけになったことで、インターネット公共圏は同性愛者にとって他者を発見する役割を果たしているとわかる。このような現実世界との連携は、他者として発見され、認知されることで関心を集め、社会からの助けを得て問題解決を導く力を持つことを可能にする。また、このような現実世界との連携は一方的ではなく、相互的に影響を与えることで、より広いネットワークが作られると捉えられる。「矯正される恋人」や「科学的に曲がる」という現実世界の動きを始めた鄭氏と戴氏は、中国のインターネット公共圏を通じ、同性愛者のジレンマに気づいたため、このような試みを始めたことを明らかにした。

したがって、同性愛者の問題を解決するためには、同性愛者が自分から声を発することが最も重要であり、中国におけるインターネット公共圏は今でも声を発するための有効的なツールであると考えられる。

終わりに

長い歴史を持ち、伝統的文化の影響を深く受けた中国社会において、同性愛者に対する認識と受容の問題は、単に賛成派と反対派間の話し合いで解決できる簡単なことではない。これは数千年の歴史と、数十年の近代化以降との対話である。したがって、同性愛者という社会少数派が歩む道は

30 筆者の統計による。

これからまだまだ厳しいと考えられる。また、他の国が同性婚合法化したため、中国も合法化しなければならないというロジックで考えると危険である。公共圏に潜む覇権性に警戒するべきである。

中国における同性愛者は不足しているのは自身に対する認識、及び社会的認識である。人間の性は生理的、心理的、社会的場面から理解するだけではなく、性は人と人接触し、コミュニケーションとしてにも理解されている。性という話題を避けなく、コミュニケーションとしての性について学び、「関係」としての性認識を育て、自分のセクシュアリティを確立させていくことが重要である。つまり、同性愛者という社会的少数派がインターネット公共圏を通じて自己観を形成し、コミュニケーションを深め、多くの人々から理解を得ることで、自分の存在において一番相応しい人間関係を構築することが期待できる。

本論は2013年以後の同性愛者差別の問題をめぐる、インターネット公共圏の動きを中心に、インターネット公共圏が中国社会における果たしている役割を検証した。現代中国社会における同性愛者が教育、法律、医療、職場など様々な場面で受けている差別を明らかにした上で、現行制度の欠如を分析し、同性愛者の要求と問題に応じる有効的な解決方法としてのインターネット公共圏を提案した。そして、歴史に基づき、公共圏論の発展プロセスから、政治的公共圏、多様な公共圏と公共圏の自律性を検討した。現代社会に対して、公共圏の本質は対抗的な批判ではなく、合理的対話で捉えるべきであると論じた。他者と向き合うというコミュニケーションの理性を強調し、公共圏を再定義した。政治学、社会学、哲学から公共圏の重要性を分析し、このような空間が、社会から排除されている他者としての社会的少数派の差別問題に果たす役割は、自己観の形成、コミュニティの成長、他者としての発見、の3つであると概括した。中国のインターネット公共圏は生活世界の合理性を追求する存在であることを明確にした。インターネット公共圏は、現実

の社会環境の圧力により、社会関係の中で自分を隠した少数派にとって重要である。

しかしながら、本論は中国のインターネット公共圏で行った個人間、コミュニティ間のコミュニケーションに着目し、社会的少数者にとっての役割を分析したが、同性愛者コミュニティ内の交流と構築変化にはあまり触れていない。中国の同性愛者は自分なりのコミュニティを形成したかどうかという質問には答えていない。また、中国のインターネット公共圏への参加者が、インターネットの普及により急速に増加したことも特徴である。その中で、サイバー暴力やインターネット犯罪により、被害を受けている人々がこの空間に信頼を失っているのも事実である。世論監視と世論批判は暴走し、どこまで管理するのが検討されていない。

いずれにしてもインターネット公共圏は、これからも社会的少数派のエンパワメントに大きな役割を果たし続けるだろう。

【参考文献】

英語文献

1. Arora N.D (2010) *Political Science for Civil Services Main Examination*, Tata McGraw-Hill Education.
2. Coronel Sheila S. (2003) *The Role of the Media in Deepening Democracy* (<http://unpan1.un.org/intradoc/groups/public/documents/un/unpan010194.pdf>)
3. Escoffier Jeffrey (2003) *The Sexual Revolution*, Running Press.
4. Green Lelia (2002) *Communication, Technology Society*, Polity Press
5. Herek G.M. (1993) On heterosexual masculinity : Some psychical consequences of the social construction of gender and sexuality, *Between men—between women: Lesbian and gay studies. Psychological perspectives on lesbian and gay male experiences*, Columbia University Press. P316–330
6. Healy, Lynne M. and Link, Rosemary J. (2011) *Handbook of International Social Work : Human Rights, Development, and the Global Profession*, Oxford University Press.

7. Habermas Jurgen (1991) *The Structural Transformation of the Public Sphere: An Inquiry Into a Category of Bourgeois Society*, MIT Press
8. Negt Oskar and Kluge Alexander (1993) *Public Sphere and Experience: Toward an Analysis of the Bourgeois and Proletarian Public Sphere, Theory and History of Literature*, Volume 85
9. Perry Sheila (1997) *Voices of France : Social, Political and Cultural Identity*, Continuum International Publishing Group

日本語文献

1. 阿古智子 (2014) 『貧困者を喰らう国 中国格差社会からの警告』新潮選書
2. 阿古智子編集 (2016) 『超大国・中国のゆくえ 5』東京大学出版会
3. 朝香知己 (2017) 「同性婚合法化とキリスト教 性差別と東アジアのキリスト教」『キリスト教文化 2017年春号』
4. 浅野素女 (2014) 『同性婚 あなたは賛成？反対？——フランスのメディアから考える——』パド・ウィメンズ・オフィス
5. 池ノ谷 和 (2016) 「女性同性愛者と異性愛者によるグループ交流会が相互理解に与える影響」『跡見学園女子大学附属心理教育相談所紀要』第13号 P.63-76
6. 石井知章・鈴木 賢編 (2017) 『現代中国と市民社会 普遍的《近代》の可能性』勉誠出版
7. 石井知章 (2019) 「現代中国における「市民社会」論の展開」『社会思想史研究』NO.43 P.52-68
8. 石丸径一郎 (2017) 「子どもの同性愛・両性愛」『児童心理』NO.1037 P.119-125
9. 伊藤恭彦 (2019) 「ネット社会とグローバル公共圏の可能性」『思想』NO.1139 P.122-136
10. 井谷沙菜 (2016) 「自分の性をみつめて——マイノリティとして生きる卒業生たち——」『高校生活指導』NO.202 P.8-15
11. 井上達夫 (2012) 『世界正義論』筑摩書房
12. 岩間暁子 ユ・ヒョジョン編著 (2007) 『マイノリティとは何か：概念と政策の比較社会学』ミネルヴァ書房
13. 宇野重昭 (1978) 「中国における伝統的国家観と近代国家の形成（国民国家の形成と政治文化）」『日本政治学会年報政治学』岩波書店 P.27-47
14. 海野 弘 (2008) 『ホモセクシャルの世界史』文春文庫
15. 遠藤 薫編著 (2014) 『間メディア社会の〈ジャーナリズム〉：ソーシャルメディアは公共性を変えるか』東京電機大学出版局

16. 遠藤 薫編著 (2016)『ソーシャルメディアと〈世論〉形成：間メディアが世界を揺るがす』東京電機大学出版局
17. 遠藤 誉 (2010)「網民パワー四億人の声が政府を動かす (特集 巨大な隣人・中国とともに生きる)」『世界』NO.808
18. 及川 卓 (2016)『ジェンダーとセックス：精神療法とカウンセリングの現場から』弘文堂
19. 落合恵美子 (2019)「親密圏と公共圏の構造転換：ハーバーマスをこえて」『思想』NO.1140
20. 天児 慧 (2018)「中国におけるインターネットの発展と社会緊張 (小尾敏夫教授退職記念号)」『アジア太平洋討究』NO.32
21. 小熊英二 (2018)『社会を変えるには』講談社
22. 尾辻かな子・杉山貴士・中村泰輔 (2001)「同性愛って「フツーだよ」ね」『SEXUALITY 人間と性をめぐる教育と文化の総合情報誌』NO.1 P.90-93
23. 小川富之編著 (2016)「アジアにおける同性婚に対する法的対応：家族・婚姻の視点から」『福岡大学法学論叢』第61巻 第1・2号 P.431-495
24. 小川富之編著 (2016)「アジアにおける同性婚に対する法的対応：家族・婚姻の視点から」『福岡大学法学論叢』第61巻 第3号 P.833-910
25. 王巧琪 (2018)「中国における社会公益活動にソーシャルメディアの募金プラットフォームが果たす役割：「微博」(ウェイボー)の微公益による募金活動を中心にして」『21世紀社会デザイン研究』NO.17
26. オマー・エンカーナシオン (2017)「同性愛に対するグローバルな反動——同性愛を拒絶する宗教・政治的ルーツ」『フォーリン・アフェアーズ・リポート』
27. 柿木伸之 (2004)「応答から来たるべき正義へ」Hiroshima journal of international studies, volume 10 P.133-147
28. 梶谷 懐 (2019)「中国の「監視社会化」と市民社会の役割」『社会思想史研究』NO.43 P.9-30
29. 河嶋静代 (2018)「日本と中国の大学生のLGBTに関する意識についての試論の検討」『北九州市立大学文学部紀要』第25巻 P.1-46
30. 加藤泰史 (2019)「公共と尊厳：一つの見取り図」『思想』2019年3月号 NO.1139 P.7-28
31. 鎌田大資 (2014)「市民社会をもたらす公共圏と社会的世界としての公共圏社会学研究の礎石としてのハーバーマスとシンボリック・インターラクショニズムの融合」『中京大学現代社会学部紀要』第8巻 第1号 P.19-46
32. 賈雪梅 (2003)「中国における新しい公共圏の成立—公共事業をめぐる浙江省三門県の「移樹事件」を事例として」『関西学院大学社会学部紀要』NO.9

33. 祁雨晨 (2018)「インターネット空間における社会運動とソーシャル・コントロール —— 中国のフェミニズム運動を事例として——」『名古屋大学社会学論集』NO.39 P.104-126
34. 佐々木掌子 (2018)「中学校における「性の多様性」授業の教育効果」『教育心理学研究』第66巻 第4号 P.313-326
35. 齊藤哲郎 (2004)「現代中国市民社会論についての省察」『広島国際研究』NO.10
36. 齊藤日出治・竹内常善編著 (2012)『ソーシャル・アジアへの道—市民社会と歴史認識から見据える』ナカニシヤ
37. 佐藤成基編著 (2009)『ナショナリズムとトランスナショナリズム：変容する公共圏』法政大学出版局
38. 椎野信雄 (2017)「Homosexualityをめぐる～ホモセクシュアルが病気でなくなるまで～」『文教大学国際学部紀要』第27巻2号 P.39-45
39. 新聞通信調査会世論調査班 (2018)「新聞の情報信頼度は前回から上昇 ニュース接触は民放テレビがトップ、NHK、新聞が続く」『第11回「メディアに関する全国世論調査」(上)』NO.684
40. 車愛順 (2014)「〈論説〉中国社会におけるインターネット公共圏：マイクロブログ・ウェiboを中心」『社会システム研究』(17), 145-162
41. 朱建榮 (2018)「中国共産党最高指導部人事決定! 習近平の基盤強化で転換期から発展へと導く」『国際商業』NO.51
42. 鈴木大助 (2015)「ソーシャルメディア利用実態調査：中国人留学生と日本人学生の比較研究 (教育工学)」『信学技報』NO.352
43. 園田茂人・劉能 (2007)「連続対談 中国社会はどこへ行くか (5) 全球化(グローバルイゼーション)と網民(インターネットユーザー)が中国を変える?」『世界』NO.767
44. 田代美江子 (2014)「東アジアにおける性教育の制度的基盤——韓国・台湾・中国と日本——」『現代性教育研究ジャーナル』NO.36
45. 竹村和子 (2013)『境界を攪乱する——性・生・暴力』岩波書店
46. 田畑真一 (2019)「ハーバーマスにおける公共(公共(1))」『思想』NO.1139 P.51-67
47. 同性婚人権救済弁護団 (2016)『同性婚 だれもが自由に結婚する権利』明石書店
48. 章蓉 (2009)「中国都市テレビ局の「新型」方言ニュースの革新——ハーバーマスの「政治的公共圏の等価物」概念の検証」『東京大学大学院情報学環紀要』NO.77
49. 沈潔 (2015)「転換期に入った中国の社会保障」『週刊社会保障』NO.2814
50. 陳雅賽 (2017)『中国メディアの変容——ネット社会化が迫る報道の変革』早稲田大学
51. 戸塚梨緒 (2018)「中国におけるインターネット検閲の可能性」『大妻女子大学コミュニケーション文化学会機関誌』NO.16

52. 寅澤一之 (2015)「サイバー空間に対する法制の課題——インターネットガバナンスと統治構造の視点から——」『立法と調査』2015年10月 No.369
(http://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2015pdf/20151001143.pdf)
53. 中川雄一郎 (2018)「公共空間あるいは公共圏 (2)」『研究所ニュース』NO.62
54. 中西絵里 (2017)「LGBTの現状と課題——性的指向又は性自認に関する差別その解消への動き——」『立法と調査』NO.394
55. 中岡成文 (1996)『ハーバーマース—コミュニケーション行為—』講談社
56. 西本紫乃 (2011)「公共圏としての中国のインターネット空間：中国社会の文化的文脈とインターネット流行語からの考察」『情報文化学会誌』NO.2
57. 西本紫乃 (2018)「中国におけるインターネットとナショナリズム」『21世紀東アジア社会学』NO.9
58. 日本社会心理学会 (2009)『社会心理学事典』
59. 濱口隆史 (2014)「中国におけるメディアの特徴と日系企業の広報の在り方」『TRC』第293巻
60. ハイデガー著 熊野純彦訳 (2013)『存在と時間』岩波書店
61. ハンナ・アレント著 志水速雄訳 (1973)『人間の条件』中央公論社
62. 廣瀬陽子 (2012)「旧ソ連諸国が危惧する第二の「色革命」」『地域研究』P.89-112
63. 藤田哲雄 (2018)「転換期を迎えた中国のフィンテック」『環太平洋ビジネス情報』NO.69 P.53-76
64. 古長治基 (2016)「性別および同性愛者タイプと同性愛者に対する受容感の関連」『九州大学大学院人間環境学研究院紀要17』P.45-51
65. フレデリック・マルテル著 林はる芽訳 (2016)『現地レポート世界LGBT事情 変わりつつある人権と文化の地政学』岩波書店
66. 堀川修平 (2018)「“人間と性”教育研究協議会における教育者の同性愛者観の変容——「同性愛プロジェクト」を中心に」『同時代史研究』第11号P.22-33
67. 本田親史 (2010)「中国・台湾における公共圏形成と「日本のメディア化」：ポスト80年代に対する考察を手がかりに (特集 日中社会学会・首都経済貿易大学金融学院 共催 中日経済・社会国際学術フォーラム)」『21世紀東アジア社会学』NO.3
68. 山口定、佐藤春吉、中島茂樹、小関素明編 (2003)『新しい公共性』有斐閣
69. 山口 仁 (2005)「情報社会論とインターネット社会論の連続性——未来社会論的視座を超えるための一考察——」
(<http://www.mediacom.keio.ac.jp/publication/pdf2005/kiyou55/yamaguchi.pdf>)
70. 山森 亮 (2001)「必要と公共圏」『思想』P.49-60

71. 與那覇 潤 (2010)「中国化する公共圏? — 東アジア史から見た市民社会論 (第二回 アジア市民社会公開シンポジウム)」『法政研究 77』NO.1
72. ユルゲン・ハーバーマース著 三島憲一訳 (2016)『真理と正当化』法政大学出版局
73. 吉居孝雄 (2008)「ウェブ概観」『川田技報』第27巻 P.1-3
74. 吉田 純 (2000)『インターネット空間の社会学 — 情報ネットワーク社会と公共圏』世界思想社
75. 吉田 純 (2016)「オンライン上に現れた風通しのいい空間「公共圏」が社会に果たす役割」
(<https://news.livedoor.com/article/detail/11160485/>)
76. 楊蓉 (2016)「中国の古代および現代社会における同性愛の概要 (2015年度・福岡大学法科大学院・国際シンポジウム アジアにおける同性婚に対する法的対応：家族・婚姻の視点から；アジア諸国と地域における同性愛者に対する法的対応の歴史と現状)」『福岡大学法學論叢』NO.61
77. 李小牧、蔡成平 (2012)『微博 (ウェイボー) の衝撃：中国を変えた最強メディア』メディアハウス
78. 李妍焱 (2018)『下から構築される中国』明石書店
79. 劉達臨著 森田靖郎訳 (1998)『中国13億人の性』講談社
80. 劉亜菲 (2018)「中国ネット世論形成におけるネットオピニオンリーダーの役割研究」Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP
81. 劉新宇 (2016)「転換期の中国における法的リスクへの対応」『グローバル経営』NO.402
82. 林明 (2014)「中国伝統法における「孝」文化要素の研究」『島大法学』第57巻3・4号
83. 和田 実 (2008)「同性愛に対する態度の性差 — 同性愛についての知識、同性愛との接触、およびジェンダー・タイプとの関連 —」『思春期学26 (3)』P.322-334
84. G・ジンメル著 居安 正訳 (2004)『社会学の根本問題 (個人と社会)』世界思想社
85. フィンリースン、ジェームズ・ゴードン著 村岡晋一訳 (2007)『ハーバーマース』岩波書店

中国語文献

1. 北京同志中心 (2018)「中国同志中心心理健康报告」中国科学院心理研究所
2. 敬一丹 (2016)「为弱势群体创造更多发声渠道」『新浪财经』
(<http://finance.sina.com.cn/hy/hyjjz/2016-12-11/doc-ixfxyipt0904146.shtml>)
3. 杜耀明 (1997)「新聞自由：可變的公共空間」『明報月刊』5月號

4. 馮健・趙楠 (2016)「后现代地理语境下同性恋社会空间与社交网络 —— 以北京为例」『地理学报』第71卷 第10期 P.1815-1833
5. 国連開発計画署 (2016)「中国性少数群体生存状况，基于性倾向，性别认同及性别表达的社会态度调查报告2016年」本論は「中国性の少数者現状調査2016年報告書」と訳し2016年報告書を略称する。
6. 哈貝馬斯 (2013)『公共空間與政治公共領域』
(<https://web.archive.org/web/20110402083033/http://www.taiwanpost.com/online/2011/03/333.html>)
7. 李静云 (2016)「新媒体与中国弱势群体公共空间的构建 —— 以“艾滋病人—大悲咒”的新浪微博为例」『人民网研究院』
(<http://media.people.com.cn/n1/2016/0302/c402788-28165647.html>)
8. 劉紀惠 (2015)『我們需要什麼樣的中國』人間出版社
9. 王雅各 (1999)『台灣男同志平權運動史』台北開心陽光出版社
10. 王君超 (2013)「微博改變中國」
(https://app3.rthk.hk/mediadigest/media/pdf/pdf_1403516208.pdf)
11. 伍仟華 (2014)『微博不能說的關鍵詞Blocked on Weibo: What Gets Suppressed on China's Version of Twitter (And Why)』左岸文化出版
12. 翁衍慶 (2016)『中國民主運動史 從中國之春到茉莉花革命潮』新銳文創
13. 楊帆・孫潔 (2018)「网众互动生成的背景及意义」『传播力研究』NO.32
14. 张之琪 (2018)「被科学殖民、被商业裹挟：文科衰落的历史与现实」『界面新闻』2018年2月27日
(<https://www.jiemian.com/article/1955548.html>)
15. 張盈堃 (2003)「網絡同志運動的可能與不能」『資訊社會研究 (4)』P.53-86

その他

1. Mtpost The Transformation Of Weibo : From “Citizen Journalists” To “Internet Celebrities” 2016-06-16
(<http://www.tmtpost.com/2391772.html>)
2. NG LGBT IN ASIA (2014) : CHINACOUNTRY REPORT A Participatory Review and Analysis of the Legal and Social Environment for Lesbian, Gay, Bisexual and Transgender (LGBT) Persons and Civil Society
本論にはこの報告を「アジア同性愛者プログラムにおける中国の調査2014年報告書」と訳し、2014年報告書という略名を使う。
3. Fang Nanlin China's first authorized sex educators to break decades of silence
CNN 2018-07-05

4. Launch Event : LGBT Action Plan 2018
(<https://www.gov.uk/government/speeches/launch-event-lgbt-action-plan-2018>)
5. Tasha Eurich (2018) What Self-Awareness Really Is (and How to Cultivate It)
(<https://hbr.org/2018/01/what-self-awareness-really-is-and-how-to-cultivate-it>)
6. 「同性愛者に転向療法を強制、医院に謝罪と賠償金じる」『AFPBB』 2017年07月05日
(<https://www.afpbb.com/articles/-/3134584>)
7. 騰訊新聞「新浪微博改名叫“微博”」 2014年3月27日
(<https://wxn.qq.com/cmsid/TEC2014032702364702>)
8. 「【头条】无良医院用“48条染色体”检测同性恋」北京同志中心 2015年01月27日
(<https://site.douban.com/bjlgbtcenter/widget/notes/1399495/note/481731640/>)
9. 「遭电击治疗同性恋：很多同志迫于父母压力去“治疗”」『南方周末』 2015年02月05日
(http://news.ifeng.com/a/20150205/43108533_0.shtml)
10. 「同性愛者は病気なのではないですか」 NPO法人EMA日本
(<http://emajapan.org/promssm/ssmqaa/qa10>)
11. 中国同性恋现状调查
(<https://www.rfa.org/mandarin/zhuannlan/zhuantixilie/zhongguotongxinglianxianzhuangdiaocha>)
12. 中国に7000万人 LGBT向けビジネスが活発化 2017年03月29日
(https://www.news-postseven.com/archives/20170329_504476.html)
13. 陈莉雅 (2018)「英国将彻底打击“同性恋扭转治疗”，此前中国也打过类似官司」好奇心日报 2018 年07月09日
(<https://www.qdaily.com/articles/54998.html>)
14. 中国NGO組織登録サイト (<http://www.chinadevelopmentbrief.org.cn>)
15. 「同妻：希望同性恋不要走进异性婚姻」 2012年02月04日
(http://phtv.ifeng.com/program/zddzh/detail_2012_02/04/12294388_0.shtml)
16. 「惊悉自己是同妻女博士跳楼自杀」 2012年07月19日
(http://news.ifeng.com/gundong/detail_2012_07/19/16134097_0.shtml)
17. 「丈夫承认同性恋身份 女博士生悲愤跳楼身亡」 2012年07月18日
(<http://news.sohu.com/20120718/n348463421.shtml>)
18. 「“川大同妻自杀案” 一审：死者家人诉讼被驳回」 2013年01月07日
(<http://news.sohu.com/20130107/n362599824.shtml>)
19. 「愤然跳楼亡」 2012年07月19日
(<http://news.ifeng.com/c/7fciN1WIOuv>)
20. 「不做“同妻”，女博士生跳楼身亡」 2012年07月19日
(<http://news.sina.com.cn/c/2012-07-19/083524803952.shtml>)

21. 「“教师因同性恋身份被开除，同志教师劳动维权第一案”」 2018年10月1日
(http://www.sohu.com/a/257296972_100266517)
22. 王芊霖「同妻：她们的“初恋乐园”知乎/Prismy-LGBT」
(https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzUyMzk3NzA4NQ==&mid=2247483728&idx=1&sn=l6a25d9221b386c6d86f92eb87bf126e&scene=21#wechat_redirect)
23. 「揭秘1600万同妻群体的空壳婚姻」 2016年04月07日
(<http://view.inews.qq.com/a/NEW2016040703405107>)
24. 同志权益促进会编辑团队 LGBT 权促会 2018年11月23日
(https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MjM5NTg5OTE0NA==&mid=2653692671&idx=1&sn=7cd7ec9d9d0d87faba054c09aedd15d)
25. 吴优「武老白：如果能拥抱一切，那拥抱得笨拙又有什么关系」 2019年05月16日
(https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzUxOTMxNTI1MA==&mid=2247483830&idx=1&sn=636dc2af1b84c44bfd3232531dcfb910)
26. 「微博宣布清理行动不再针对同性恋内容」新京报财讯 2018年04月
(<https://www.weibo.com/ttarticle/p/show?id=2309351000884229531639635793>)
27. 楊雄「北上广青少年性健康最新调查」『中国教育报』 2018年07月12日第11版
(<https://edition.cnn.com/2018/07/05/health/china-sex-education-intl/index.html>)
28. 「“珍爱生命”系列小学生性教育读本又出新书 曾备受争议」
(http://news.ifeng.com/a/20170401/50877834_0.shtml)
29. 「“直白”性教育读本吓到家长 南京小学无统一教材」金陵晚报 2017年03月09日
30. 「BLUED：独创“互联网+HIV防治”，让“不一样的烟火”一样的绽放」 2018年06月27日
(<https://www.caixinglobal.com/forum17/index.html>)
31. 「中國同性戀受教育權第一案」敗訴 中國平權路仍艱難 2017年
(<https://www.hk01.com/%E4%B8%AD%E5%9C%8B/87202/>)
32. 「李银河 中国同性恋群体的现状：已过春天，到惊蛰了，期待夏天」 2016年
(<https://www.douban.com/note/567845156/>)